

序

2018年5月に『グローバル天理』の編集部からメールが届いた。『グローバル天理』の連載依頼だった。『グローバル天理』と言えば、機関誌の中でも学術100%の紀要、機関誌だと理解していた。駄文専門屋、「元気一杯〜、一に勢い!」的な文章を書いているこの私に、「なんで、また?」となるのが当然である。でも「書けない、出来ない」と、さすがに無い才能は出せない、「断ろう」と当初思っていた。

その翌朝、出張所の神殿掃除の際、教職舎の廊下をモップで拭いていた。私はいつもモップを二つ持って拭く。より多くの面積が拭けるからだ。

「今年は2018年か……コロンビア出張所所員時代(1988年から6年)、毎日こうして廊下を拭いていたなあ……今現在も同じことをしてるのか……30年か……成人していないなあ……」てなことを考えていたら、私の人生というのはほとんどラテンアメリカ世界と関わってきているんだな、とあらためて気が付いた。特にコロンビア無しでは私の人生は語れない。「マイライフ・イズ・コロンビア……」。

天理大学卒業後1982年9月にブラジルに渡航、年齢24歳、ラテンアメリカ社会との関わりの始まりだった。ブラジルで2年過ごし、その後1年弱スペインで「遊学」、1988年11月にコロンビアへ出向・留学、コロンビアのバージェ大学卒業後帰国して3年間天理教海外部翻訳課、ラテンアメリカ課長を約9年間、そして2010年再度コロンビアへ、現在すでに8年目を数えている。30年近くもラテンアメリカとイベリア半島と付き合っていることになる。30年も付き合っていて、「あんなの事、わからへんワ」では情けない。ここは「半生をまとめる意味でラテンアメリカの事情を書かせてもらおうではないか」と腹が定まった。これが執筆の動機である。

執筆のねらい

ただ、学術的な文章は書けないので、コロンビア社会を中心として、ラテンアメリカの大衆文化、慣習を踏まえた生活を描きそのような社会の価値観に浸透していった、もしくは、浸透しつつある天理教の伝播を探ることにする。

用語についてであるが、アングロアメリカに対してラテンアメリカという言い方がある。しかし、日本の外務省では中南米局・北米局に分かれている。この連載では社会文化的事柄を扱うときにラテンアメリカを使用し、地理的な事柄を言及するときには中南米を使用することにする。

また生活を描くと言っても、ラテンアメリカの人々の生活自体千差万別である。でも、その基盤が「家族・家庭」(ファミリア)となると、違いがありながらも何か共通項が見いだせるのではないかと考えた。そこで6つの項目と各項目を6つにさらに分けて、この共通項に関する「原型」を見つけたいと思う。この原型によって、コロンビアおよびラテンアメリカの価値観と、それに応じた天理教の伝播に少しでも触れることができれば幸いである。

ラテンアメリカ社会は現在でも流動的であるので、絶えず事

情を更新しながら執筆を心がけようと考えている。数年前から国情が悪化しているベネズエラの例、十数年以来のコロンビア国内避難民の問題も無視できない。

ラテンアメリカ事情を初めて学ぶその段階から入りたいと思う。お付き合い願いたい。

題して「コロンビアへの扉」。

サブタイトル「ラテンアメリカの価値観と教えの伝播」。

1. ラテンアメリカ地域基礎知識の話

1・1 ラテンアメリカという語彙

現在ではラテンアメリカという表現はほぼ定着し、よく使用されているが、この名前の由来について言及すると先ず、新大陸「発見」まで遡らなければいけない。1492年、コロンブスがアメリカ大陸を「発見」



Google マップより

した。アメリカという名は、その頃、イタリア人航海士アメリゴ・ベスプッチがアメリカ大陸を探検し、彼の書いた地図をドイツの印刷技師バルトゼー・ミュラーが制作者の名にちなんでその土地を「アメリカ」と読んだのが起源である。その後、スペインとポルトガルが精力的に北米の一部と中南米を植民地化した。当時、スペイン植民地は「インディアス」、ポルトガル植民地は「ブラジル」と呼ばれていた。

19世紀、中南米諸国が独立してから、旧スペイン領はイソパノアメリカという名が使われたが、これだと旧ブラジル領が含まれないためイペロアメリカ、つまりイベリア半島(スペイン・ポルトガル)系のアメリカという意味の言葉も生まれた。

さて、ラテンアメリカという名前の起源は以外に新しく、19世紀半ばからだと言われている。アングロサクソン系のアメリカに対し、フランスがスペイン・ポルトガル支配の強い地域に参入のため、「ラテン」というイペロより広い概念の言葉を使用し始めた。したがってラテンアメリカの名称は、フランスの当時の政策によるもので、メキシコをはじめ、当時の中南米の知識人がフランス文化を羨望していた風潮により受け入れられ、次第に定着していった。

当初は、カリブ諸国も含んでいたが、ここには非ラテン系の国もあり、国の成立過程も他の中南米と異なっているため、現在ではラテンアメリカとカリブ諸国というように区別する傾向がある。

ラテンアメリカ地域を一つの民族共同体という意識も存在するが、また一国単位のアナリズムも存在する。歴史において多くの共通したものがあるのは事実であるが、独立後の歴史は各国で異なっている。